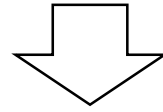


ICT活用により育成を目指す児童生徒像

本市における育成を目指す児童生徒像（情報教育）

「自ら考え，自ら学び『未来を切り拓く児童生徒』」



ICTを活用して育成を目指す力

- 1 必要な情報を収集，整理，分析，発信する力
- 2 情報機器を適切かつ有効に活用できる力
- 3 物事を論理的に考える力
- 4 情報を安全に活用する力

ICT活用により育成を目指す児童生徒像

○ 情報活用能力の具体

情報活用能力	本市の目指す目標
情報を得る	<ul style="list-style-type: none">・インターネット等を適切に活用して、必要な情報を効率的に収集できる。
情報を整理・比較する	<ul style="list-style-type: none">・得た情報を整理、比較、分析することを通して、考えをまとめることができる。
情報を分かりやすく発信・伝達する	<ul style="list-style-type: none">・プレゼンテーションソフト等を活用して、考えを分かりやすく表現・発表、情報を発信することができる。
保存・共有する	<ul style="list-style-type: none">・情報をクラウドに分類して保存したり必要な情報を共有することができる。・保存した情報（学習履歴等）を活用して、自分の学習に生かすことができる。
基本的な操作の習得	<ul style="list-style-type: none">・（発達段階に応じて）コンピュータの仕組みを理解している。・（発達段階に応じて）必要なソフトウェアやアプリケーションの操作やキーボードによる文字入力ができる。
プログラミング的思考	<p>[小学校] コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けることができる。 (算数や理科、水戸まごころタイムを中心に各教科の特性に応じて実施)</p> <p>[中学校] 技術・家庭科（技術分野）のねらいに応じて、プログラミングに関する内容を身に付けることができる。 (各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成も図りながら、プログラミング教育を行う。)</p>
情報モラル等	<ul style="list-style-type: none">・他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し、情報社会で責任をもって行動することができる。・犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できる。・コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解している。

ICT活用により育成を目指す児童生徒像

- 各教科等の学習の中で「情報活用能力」を育成

